

人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

季節を一ヶ月先取り

三月中旬に桜の開花だよりが届いた一方で、大雪に見舞われた地域もありました。その後、四月に入り、気温は一気に上昇して木々の芽吹きは想像以上に早く、淡い緑の新緑を楽しむ時間は瞬く間に終わってしまいました。今年は春を象徴するヤマザクラ、カタクリ、ウズミザクラ、ミツバツツジは春先の低温と雨が少なかったせいか、開花も一斉に始まり花を楽しむ期間も短く、散り際を合わせるように花の季節は終わってしまいました。

春先の低温や雨量が少なかった事象はヤマアカガエルの繁殖行動にも現れ、産卵は一日だけでした。

四月になり、既に夏日を記録する日が出現して、平均気温を上回る日が連続しています。林は新緑から深緑に変わり、若葉の季節を飛び越え、一足飛びに初夏の装いになりました。

活動拠点の花だより

新緑の木漏れ日の下、ヤマツツジが咲きだしました。今年は開花数や華やかさが物足りません。コバノタツナミ、キンラン、ササバギンランの開花にも開花数の減少や変化が見られます。



ヤマツツジも開花が散漫



フデリンドウ



4月14日 新緑の頃



4月29日深緑に変わる



キンラン